荒尾市立府本小学校　校長便り　№.１０９

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和8年6月29日(月)

【独り言】

先日、通勤途上、ぼんやりと考えたことがある。「負けず嫌い」についてだ。

よく「私は負けず嫌いですから。」と話している人を見かけるが、これは対抗する相手等に対して使っている人が多いようだ。私もその一人かもしれない。そこで、「それでいいのか?」と立ち止まる。「私は自分の弱さに負けている?」私は負けず嫌いと言えるのか?

で、考えたのがこうだ。本当の負けず嫌いは何に負けたくないのか? その答えを考えていくと、結局のところ、自分自身に対する「負けず嫌い」にたどり着いた。自分がそうありたいと願うからこそたどり着いた結論だ。相手に勝っただけではその後の成長が望めない。自分自身に課した目標に勝てるかどうかは自分にしか決められない。自分に課した目標が高ければ高いほど、結果とのギャップも現れるだろう。それに妥協していては本当の負けず嫌いとはいえないような気がする。そして最終的には、初心に帰り、原因や責任の矛先を自分自身に向けて真剣に省みることができる人が、本当の負けず嫌いだと思う。そういう意味で私はまだまだだ。

【雑感】「プロフェッショナル」について考えた?

私、「プロフェッショナル私の流儀」というNHKの番組をよく見るのですが、何か凄い人ばかり出るよなぁ…なんて思いながら見ています。という私も教師をしている以上は、プロフェッショナルでありたいと願う一人です。色々な職業のプロの流儀を見てきましたが、教師という職業の流儀とはいったい何なのでしょうか? 私なりに考えてみました。

そもそも仕事とは何なのでしょう?「生業」という言葉が示すように、生きていくために金銭を得るための活動とすると、活動の対価として金銭を得ることが基本ですね。活動の対価ですから、個人や集団が利益を得て、満足感や充実感を得ているはずです。堅い話になると面倒なので、簡単な話にします。教師という職業は、活動によって子ども達や保護者、地域の皆様に喜びを提供できる、いや、提供しなければならない職業だと私は捉えています。ということは、「楽しい授業」や「思い出づくり」、「生徒(生活)指導」等々、業務は挙げれば限がありません。そこで、私が思う教師としてのプロフェッショナルとは、次の2点です。

「期待に応えるため、その時できることを、全てやり尽くす人」

「最適解を見つけるための努力を怠らない人」

まだまだ私は修行中ですので、プロとは言い難い職業人です。ですが、2つ目の最適解を見つけるための努力は怠っていません。私はそれをしていないと落ち着かないんです。昔は「教員にでもなれば将来左うちわ」などと言われた時代がありましたが、今は違います。新しい知識を更新して行かなければなりません。読者の皆様の現場ではいかがでしょうか。どのような職業にも「経験則」や「キャリア」が、パフォーマンスに影響し、当然それは仕事の対価に影響します。いわゆるギャランティーです。しかし、学校の教師は大学を卒業した直後から「先生」と呼ばれるようになり、若手であろうがベテランであろうが、子ども達や保護者の皆様からは同じような活動を求められるのです。この様に書きましたが、どのような仕事でも同じような場面はあるはずですよね。

先日、この番組を見ていて、こんな言葉が紹介されました。

「サラリーマンとして、筋を通せ!」

教師としての筋を通しているか、子ども達への指導、教師への指導、保護者の皆様への接し方、地域の方々との接し方等々、筋が通っているか? 帰りの車の中で自問自答しながら、反省する毎日です。

シリーズ「自分を語る」#109

12月のある日、教室の明かりが点いておらずびっくりした私は、何か事件が起きたと思い、恐る恐る教室の扉を開けました。

「何かあったつか!?」

「・・・」

「せんせ〜、お誕生日おめでとうございます!」

その瞬間、明かりが点けられ、明るくなった教室の黒板には、私に対するメッセージが一面に書き込まれていました。この時は、ホッとすると同時に、嬉しさが込み上げてきましたねぇ。一年勝負で学級担任業務をこなしていた私にとっては、どれほど精神的な繋がりを求めて良いのか測りかねる部分もありました。ですから、この時は本当に嬉しくて、自分が一生懸命子ども達に接していたことはきちんと子ども達に伝わっていると確信が持てるようになり、併せて、自分のパフォーマンスの自信へ繋がっていきました。子ども達はちゃっかりしたもので、こう私に言ってきました。

「誕生日のお祝いをしてあげたので、一時間目はくだらない話を。」

「あま〜い。んな訳ないだろっ。ただでさえくだらない話で時間ロスしているのに。」

「せんせ〜もくだらない話好きじゃないですか。」

「そうそ〜ばってん、教科書が終わらん。」

「よかよか、どうせせんせ〜は途中で忘れて、また始めらすて。」

こうして、みんな笑顔で一時間目がつぶれていく達田学級でした。

12月末のクリスマス会に向けて、休み時間を使って着々と準備を進める子ども達。見事、自治的集団活動が展開されています。私の所に来るのは材料の調達とか判断に苦しむことの相談だけでした。準備の中では、私の影響を受けてでしょうか、「楽しむ」という要素を忘れずに入れていましたね。大した子ども達です。横断幕作成担当の子供が、横断幕に何やら漢字を書き始めました。「栗…」私はまさかと思い、担当の子どもに尋ねました。

「クリスマスという片仮名に漢字をあてるの?」

「そ〜で〜す!」

どうも、保護者の方が昔てんな集団(当て字を使う人たち)の中で活躍されていたらしく、協力してくれたそうです。で、こうなりました。

「栗栗魔酢怪」

みんな楽しそうに笑っていました。昨年度、殺伐とした雰囲気の中で目標も無く、安心できる居場所も無かった集団とは思えない変容でした。私にとってこの年の学級経営は、学びも多かったですし、自分のやり方に自信を持った年でもありました。　(つづく)

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。(「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　)